

富山県医師会花粉症対策の30周年のあゆみ

富山県農村医学研究所 寺 西 秀 豊

＜はじめに＞

花粉症は従来、日本には無い疾患とされていたが、1960年にはブタクサ花粉症が記載され、1963年にはスギ花粉症が、栃木県日光地方で、日本独特の花粉症として発見された。1980年代には花粉症増加が社会問題化し、1990年代には花粉症対策が必要となった。

富山県では富山県医師会が中心となって平成7年（1995年）に花粉症対策委員会が発足した。富山県医師会花粉症対策委員会の30年間にわたる活動を振り返ると、富山県内に広く花粉観測点を設け、花粉飛散を調査するとともに、県内の医療機関にご協力いただき、スギ花粉症患者に対する調査を行ってきたことが独創的取り組みとして上げられる。また、花粉症情報活動も活発で、花粉飛散シーズンには、明日のスギ花粉予想メール配信、テレホンサービス、医師会ホームページ上の花粉症情報提供、「医報とやま」への花粉症情報の掲載などが行われた。

毎年、詳細な報告書が出されてきたが、今回は、30年の節目として、以下のような成果が明らかになり、富山県医学会に発表された（写真1）。



写真1. 成果を2025年（第79回）富山県医学会に発表

＜富山県医学会発表内容＞

1. 女性患者が男性患者を上回ったが、男女とも患者数はスギ花粉飛散数と良く相関した（図1、図2）。
2. 症状別には、両症状同時発症の患者数が最も多く、スギ花粉飛散数年次変動とも高い相関が示された。
3. 花粉症は現在も増加傾向が続いているが、その背景にはスギ花粉飛散数増加があると考えられる。
4. 花粉症発生源対策として、富山県森林研究所等の取り組みにより、全国的にも無花粉スギ普及が進んできている。

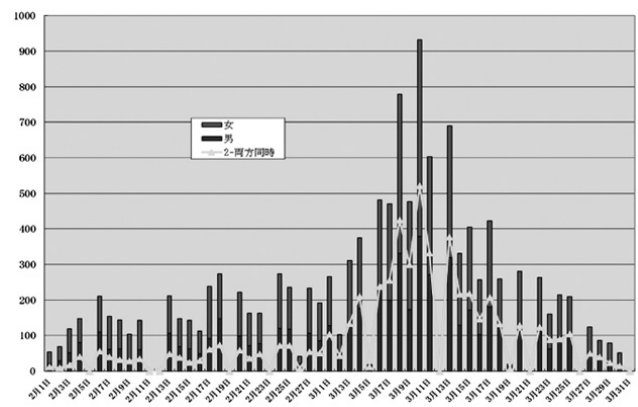


図1. 男女別、症状別にみた花粉症患者数の推移（2023年）

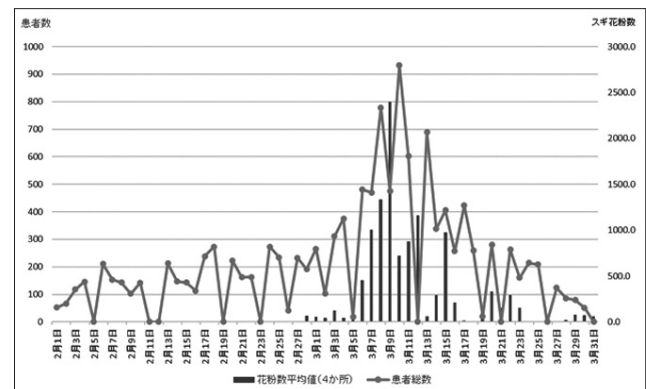


図2. スギ花粉数と花粉症患者数の推移（2023年）

＜成果と考察＞

スギ花粉飛散の年次推移を観察すると、スギ花粉が大量に飛ぶ年と飛ばない年がある。こうした現象は患者の予防、治療に直接関係があり、次年度の治療薬生産や治療法の選択を検討する際にも、大事なデータになる。また、長年的にスギ花粉飛散量は増加してきている。日常的花粉症情報の利用は、花粉症患者にとって不可欠になってきている。

スギ花粉症の本態はIgE抗体を中心とした即時型アレルギーであり、病態に基づく舌下免疫療法が急速に普及してきている。

スギ花粉飛散量の長年的増加に対する対策として、日本林業の森林管理や森林づくりが見直され、環境中の空中花粉を少なくし、花粉症を予防しようという考え方が提案され、国際的にも注目され

つつある。環境中の空中花粉を少なくし、花粉症を予防しようという考えは、地域づくりや街づくりにも関連した分野であり住民の方々の活発な論議や自治体の積極的な政策立案等が期待されている。

＜謝辞＞

富山県医師会花粉症対策の30年を振り返ると、多くの方々のご努力と、ご協力があったはじめて実現した成果であることがわかる。ご協力、お力添えを頂いた空中花粉観測定点、花粉症患者調査定点の眼科、耳鼻科の医療機関の先生方、ポールンロボによる花粉観測を行った医療機関および富山県森林研究所と関係諸機関の方々の貴重な貢献に対して心より御礼申し上げます。